図画工作科学習指導案

指導者　島谷　あゆみ

日　時　令和４年 11 月 19 日（土）第１校時　９：20～10:05
年　組　小学校　複式低学年　計 16 名（１年男子４名・女子４名，２年男子４名・女子４名），ゲスト１名
場　所　小学校　複式低学年教室
題　材　「ソーシャル・ビュー　見えない人と“みる”鑑賞」
題材について

「自分さがし」を促す題材選択と目標設定（翻案→授業構想力），および題材の概要

本題材は，ソーシャル・ビューによって目の見える人が見えない人と一緒に絵画作品を鑑賞し，作品を媒介にやりとりすることで，児童が今まで気付いていなかった事物にも意識を向けてよりしっかり見るようになることを目標とする鑑賞題材である。何を見るかに加え，誰と見るか，どのように見るかを変え，視点の転換を図ることで，児童が新たな自分自身のものの見方を発掘していくことができるようにし，「自分さがし」を促していく。ソーシャル・ビューについて伊藤亜紗は，「みんなで見ること，コミュニケーションを通して見るという方法である。そこにあるのは，作品の物理的な特徴を細部まで知ろうとすることから，作品が与える印象やそこから生じた思考を共有することへの転換である。[1]」と述べている。

本題材でめざす児童像は，「自他の見方や感じ方の違いに気付き，感じ取ったイメージを伝え合う工夫をしながら，多様な価値観に触れることを楽しむ児童」である。本学級では，ソーシャル・ビューを令和３年 12 月に一度実施している。この時はアイスブレイクと美術鑑賞を合わせて２時間題材として実施しており，複式２年生は今回が２度目の経験でありゲストとも面識がある。ゲストは「自分は，色そのものを見た経験が無く，分かりづらいと感じる場面もある。しかし共有できないことやお互いの気持ちを認識することが時にとても刺激的で，そうした刺激と共感の両方を楽しめるということがビューの活動の大きな魅力と感じている。[2]」と述べている。

本年度は視覚以外の感覚にも意識をおいた実践とし，生活科との関連も図りながら８時間題材として設定する。まず，教室内で一般的な対話型鑑賞（１枚の絵画について指導者がファシリテータとなり全員で行う対話型鑑賞）を実施する。その後，これまでの生活科の学校探検（５月）・通学路探検（９月）において細部について発見したり疑問をもったりした経験を生かし，11 月は屋上からの探検（風景観察）を行う。教室内での鑑賞に，屋上で行う身体の感覚を生かした探検を関連付けることで，絵の世界に入り込みやすくなるという想定である。

本学級の児童は画面に描かれた形や色などの造形要素を通して鑑賞を行うが，ゲストは視覚障害があるため絵画作品を媒介にした児童との言葉のやりとりを通して絵画の良さを味わう。鑑賞方法の違いを生かして，目の見える人と見えない人がともに楽しめる美術鑑賞をめざす。ゲストが述べた「刺激と共感の両方を楽しめる」という言葉を手掛かりとし，いろいろな感覚と言葉を用い共通の土壌で気付きを伝え合う工夫をすれば，互いが影響し合って鑑賞を楽しめると考える。作品選定にあたっては，描かれている様子について児童が何らかの言葉に変換しやすい作品，さまざまな感覚を働かせることによって視覚以外でもイメージを共有しやすい作品を織り交ぜたものとして，６作品を選定した。

本学級は第１学年と第２学年の両学年で学ぶ複式学級である。10 月に両学年に作品鑑賞に関する実態調査を行った。調査条件等は次のとおりである。パフォーマンス課題は右に示したようにVTS(Visual Thinking Strategies）の３つの問いを添えて提示した。

事前調査:R4 年 10 月
対象:小学1年生(8 名)･2 年生(8 名)
時間:7 分間
鑑賞作品:『夜のカフェテラス』,ゴッホ,1888
パフォーマンス課題:この絵を見て,気付いたことを書きましょう。(3 つの問いは,罫線付き用紙に予め提示)
・「この絵の中で何が起きていますか？」
・「どこからそう思いましたか？」
・「そこからどう思いましたか？」

調査の結果，７分間で１年生は 3.8 個，２年生は 3.6 個の気付きを書き出した。全体の文章量を比較すると２年生が僅かに多かったが大差はなかった。事前調査で書き出した気付きの例は，１年生では「テーブルがあって椅子もあって人もたくさんいて，家ではない。僕はそう思いました。」「お客がレストランの店員さんをじっと見つめてレストランの店員さんが踊って飲み物を渡している。」といったように，目に見えるものや捉えた事実をそのまま書いていた。２年生では「夜の商店街の中に明るく光っているレストランがあって，その光を見て，道を通っている人も踊り出している。」「絵の中にあるレストランでご飯を食べてみたい。」といったように，目に見えるものをもとに想像したり関連付けたりしながら，絵の中に少し入り込んでいるようであった。

主体的に活動に取り組んだりスムーズに外言化したりすることについては発達段階や経験の差があると考えられるが，鑑賞に関する両学年のレディネスを記述で評価した範囲では量・質ともほぼ同じであり，学習集団による発達段階の違いを顕著に見取ることはできなかった。

試行錯誤を可能にする環境設定(翻案→授業構想力／授業実践力)

試行錯誤を可能にする環境設定として，３つの手立てを取る。

１つ目は，一斉鑑賞のスタイルで行う対話型鑑賞である。ファシリテートによって，個々の気付きを断片的なものに終わらせるのではなく関連付けて作品からストーリーを想像しやすくしたり，印象や考えを共有する楽しさを味わったりすることができるようにする。その際，視覚以外の感覚を通した気付きも伝え合うことで，見える人も見えない人もより交流しやすくなるのではないかという予想を伝え，次の活動に繋がるようにしていく。

２つ目は，視覚以外の感覚を拓くための屋上からの探検（風景観察）である。さまざまな感覚を拓くため，身体で景色を感じる経験をする。

３つ目は，五感カードを活用したジグソー学習である。鑑賞の視点を拓くため，グループを変えながら気付きの交流を行う。他者と交流しアウトプットする場を設けることで自分の気付きを意識しやすくし，他者と協調しながら鑑賞する楽しさに気付くことができるようにする。屋上で見つけた空等の景色から俯瞰した画面を撮影し，４つの方角で俯瞰した画面を印刷したものと，気付きを記入する五感カードを児童に配布する。まず，1 回目のジグソー学習を同じ方角の人と行う場の設定である。五感アイコン（表）が描かれた五感カードに気付き（裏）を記入して，俯瞰した画面（印刷物）に貼るようにする。次に，２回目のジグソー学習を異なる方角の人と行う場を設定し，五感クイズを通して互いの気づきやイメージを共有しやすくする状況を作る。

目標を意識化できるよう，ルーブリックは児童と共有しておく。ゲストには前日に来校

していただき，アイスブレイクや自己紹介を行って，名前と声を一致させてもらう。
本時の導入では，まず見える人が作品についての気付きを述べ，その後見えない人に質問や感想を言ってもらう。各グループは２つの学年の混合で編成する。題材の終末に省察を行い，児童自身の振り返りに加え，児童の様相から指導者の授業構想や授業実践等を分析・評価する。

ポートフォリオを活用したプロセスの記録（授業分析･評価力），
学習過程に位置付いた振り返り（授業構想力／授業分析･評価力）

本題材の目標として挙げた「今まで気付いていなかった事物にも意識を向けてよりしっかり見る」ことについて，振り返りを行う。うまくいったこともそうでなかったことも含めて，児童が自らの学びの軌跡を大切に振り返り，肯定的に評価することを繰り返しながら，自分らしさに気付いていくと考えている。
評価の方法は毎時間の振り返りをポートフォリオに蓄積したり，予め共有したルーブリックで児童が自分自身を振り返ることができるようにしたりして，題材の終末の振り返りに生かせるようにする。

指導目標

・物理的に見えない作品について互いに伝わりやすくするには，自分の疑問（？）や発見（！）を，イメージしやすい言葉にすると良いことが分かるようにする（例えば，上下左右や前後といった配置，色のイメージ，細部と全体，色や形の様子・匂い・音・触った感じ・気持ち等）。
・イメージを共有する工夫を試せるようにして，言葉にして伝えたり答えたりできるようにする。
・見える人と見えない人とで，主体的にソーシャル・ビュー形式の美術鑑賞を楽しもうとする態度を養う。

指導計画（全８時間）

次	時間	学習内容
一		体感した景色を用いて五感クイズおよびジグソー学習（４時間）
	1	・ 一斉鑑賞のスタイルでの対話型鑑賞
	1	・ 五感を用いた屋上からの探検
	1	・ 同方角の人との１回目のジグソー学習・五感アイコンを記したカードに気付きを記入
	1	・ 異方角の人との２回目のジグソー学習・五感クイズ・同方角の人との再交流もしくは一人での振り返り
二		ソーシャル・ビューに向けての準備と実際（３時間）
	0.5	・ ルーブリックの共有
	1.5	・ ゲストとのアイスブレイク（名前と声を一致させる自己紹介含む）・一斉鑑賞・次時の説明
	1	・ ソーシャル・ビューの実際（本時）
三		省察（１時間）
	1	・ 省察 「目の見えない他者とやりとりすることで，今まで気付いていなかった事物にも意識を向けてよりしっかり見ようとするようになったか」の振り返り

本時の目標

ソーシャル・ビューを楽しみ，絵を見て感じたことを相手に伝わるように伝えたり，相手から受け取ったりする。（本時　７／８）

準備物

美術作品，アイマスク，パーティション，ボイスメモ，振り返りカード

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

「自分さがし」を促すため，まずは児童が今まで気付いていなかった事物にも意識を向けよりしっかり見ようとするような題材を設定する。次に，感覚を生かしやすい美術作品を選定し,他者とのやりとりを通して新たな驚きや疑問や解決が生まれる環境を設定する。授業場面では，指導者が極力言葉を挟まないようにすることで，児童とゲストが，自分の感じ方を身体の感覚で伝え合ったり互いの言葉から刺激を受けたり受容したりしながら，互いの言葉によって作品の見方を深めたり広げたりしていけるようにする。【授業実践力】

学習の展開

<table>
<tr><th>学習活動と内容</th><th>指導上の留意点（◆評価）</th></tr>
<tr><td>1　学習のめあてをもつ。（５分）
・学習課題に出会う。</td><td>○予めアイマスク配布・消毒をしておく。
○イメージを働かせやすいよう，静かな雰囲気の中で活動を行えるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">感覚を生かして絵を楽しみ，不思議な？（ハテナ）や，発見した！（ナルホド）を伝え合おう。</td></tr>
<tr><td>2　活動の仕方を知る。（８分）
・自分のグループや活動の仕方を知り，簡単なデモンストレーションを行う。

４つのグループ（A～D）に分かれる。
・A はゲストと共に活動する。
・B～D は，それぞれのグループで２人（アイマスク有り）＋２人（アイマスク無し）に分かれて，作品鑑賞を行う。
・どのチームもイメージを言葉等で伝え合う。

3　ソーシャル・ビューを行う。
（５～７分×４グループ）
・生まれた時から，色を見ていないんだな。色はどうやって伝えたら分かりやすいかなあ。
・匂いや音も言ってみようかな。
・絵の中の果物は甘ずっぱい味がしそう。ゲストも同じ感じかな。
・形は，手を持たせてもらったり，体を動かしたりしたら,分かりやすく伝えられそう。
・友だちの言葉にたくさん頷いておられたな。私も自分の感じ方を言ってみよう。
・どの部分かな。全体的なイメージかな。</td><td>○屋上探検や五感クイズを想起させることで，本時は鑑賞をみんなで楽しめるようにいろいろな感覚で不思議や発見を見つけ，イメージを伝え合うことをめざすのだと分かるようにする。
○両学年混合のグループで鑑賞することでスムーズかつ主体的に活動できるようにする。
○アイマスクを用いるのは，目（視覚）以外をしっかり働かせるためだと伝えるとともに，場所移動の際や交代時は，安全に配慮して行動するよう助言する。

○開始時はゲストと児童を繋ぐことで，安心して活動できる人的環境になれるようにする。
○正解・不正解へのこだわりが見られる場合は，多様な鑑賞の視点に出会える良さに気付いている姿を称賛する。
○児童とゲストが作品を介したやりとりを楽しみ新たなアイデアに出会えるよう，対話が進み始めたら指導者は運営面で支援する。
○児童から，伝わりやすくするには指示語ではなく上下左右等を言った方が良いという言葉が出るのを待つことで，主体的な学びに繋がるようにする。支援が必要</td></tr>
</table>

4　本時を振り返り，片付けをする。（４分） ・楽しく活動できた。 ・ゲストにとっては，どうだったかな。どの伝え方が分かりやすかったか訊いてみよう。（色・形・雰囲気，部分と全体）	な場合，位置関係を示すよう助言する。 ◆ソーシャル・ビューを主体的に楽しんでいる。【主体的に学習に取り組む態度】 ◆自分のイメージを言葉にして伝えたり，答えたりしている。【思考力・判断力・表現力】 ○振り返り用紙に書く視点を伝え，他者の言葉によって自分の見方を作り出したプロセスに気付けるようにする。（？や！と思った言葉・感じ・気付きの違い等）

本題材で用いる絵画作品

図１　『日傘をさすモネ夫人とその息子』，クロード・モネ，1875

図２　『黄・赤・青』，ワシリー・カンディンスキー，1925

図３　『秋』ジュゼッペ・アルチンボルド，1572

図４　ティンガティンガアート，タンザニアで発祥した絵画スタイル，1960 年代末

図５『名所江戸百景 大橋あたけの夕立』，歌川広重，1857

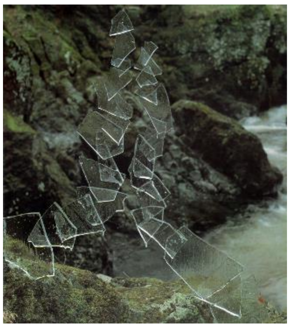

図６　『Ice and icicles dipped in water held against rock and ice until frozen』，アンディ・ゴールズワージー，1987

１）伊藤亜紗，「障害者と考える身体（１）他者の目で見る」，www.bonus.dance/essay/01（2022 年 10 月 23 日閲覧）．
２）「感覚×コミュニケーションでひらく，美術鑑賞の新しいかたち」『平成 29 年度文化庁　地域の核となる美術館・歴史博物館支援授業　感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業平成 29 年度実施報告書』，平成 30 年，新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会，p.９．